

仕事の現場から

Vol.10

卒業生に
お仕事についての喜びや、
獨大生に向けてのメッセージを
語っていただきます。

何事もないことが重要。
お客様に快適なフライトを



空の玄関口を安全な場所にすることを目指します。



ANAエアポートサービス株式会社
オペレーションマネジメント部

榎尾 健人さん(15年言卒)

私は、子どもの頃から港がとても好きで、将来は空港、港湾に関わる仕事に就きたいと考えていました。就職活動の際、企業を探していく中で運航管理業務に携わりたいたいという気持ちが強くなり、「ANAエアポートサービス株式会社」の採用試験を受けました。私の夢がこころから叶えられると感じて入社し、今年で5年目。夢中で取り組んで

きましたのであつという間でしたが、毎日新しい発見があり、充実しています。日々の運航業務においては、主に航空機の離発着支援を行っています。安全に、時刻通りに離発着できるように支援すること、また、お客様に関する情報や気象情報等を対空・対地の双方で機長とやりとりするといった業務です。そこで私たちに求められるのは、正確な情報をタイムリーに分かりやすく伝えること。特に気象情報は、リアルタイムで変化します。それをきちんと分析し、見極め、伝えていく必要があります。航空機はお客様を乗せて飛行していますので、「先程は間違っていました」では済まされません。常に緊張感を持ち、正しい判断ができるよう、日々学ぶことは欠かせません。

入社3年目の時に、国家資格である「運航管理者技能検定」を受験し、運航管理者の資格を取得しました。この資格を得たことで業務の幅を広げることができ、それに加え、自信にもつながったと感じています。同時に、責任の重さも痛感しています。私たちオペレーションマネジメント部の業務は、お客様を羽田空港から目的地までお連れすることですが、そこには「安全性」という基盤の上に安心感と快適性もお届けしないといけない、という使命があります。飛行機 便に、数多くの仲間が様々な角度から関わっています。お客様がご利用になられる最初から

最後の業務は、お客様の命に関わるものですので、無事にフライトが終了したことが分かると本当にほっとします。「何事もない」ということが、これほど重要で安心することなのだ改めて感じています。入社以来、先輩方に教えていただいたこと、学んできたことを生かして様々な支援、他部署との調整を行い、それを実際のフライトに反映して何事もなく完了できたときの達成感、この仕事の大きなやりがいとなっています。仕事柄、他部署の同僚や乗員とのコミュニケーションを取ることが多く、パイロットには外国人もいます。大学のディスカッション形式の授業や、「相互理解を深める」というゼミでの学びがまさに今、生きていると思います。



正確な情報を把握し、タイムリーに提供します。

榎尾さんのある一日のタイムスケジュール

